

今週のズバリ こう見る

Analysis

原油高と金利上昇が支援材料 50ドルの区切りで買われる

GOLD 金



サンワード貿易(株)
アナリスト
陳 晁熙氏

ニューヨーク金期近は1,250ドル、1,300ドル、1,350ドルと50ドルの区切りで上昇、状況次第では昨年3月17日の1,391.4ドルを抜き、400ドルを目指す動きを予想して良からう。

これまで、米国の景気回復、欧州経済のデフレ懸念を背景にしたドル、株、債券のトリプル高に加えて、原油安の動きが金価格を抑えてきたのは周知の通りだ。ところが、5月に入って従来の動きが逆転した。つまり、米国の景気不安、欧州での物価上昇により、ドル安、株安、債券安(債券の利回り上昇)の動きに、バブル化していた債券が大きく売られた結果、利回り上昇を招き、その煽りを受けて株が売られた。一方で、大きく売られた

強気したい背景は原油高。WTIが61ドル、ブレントが68ドルに到達、チャートを見てもWボトムをつけて底入れ、上昇する流れを形成している。商品市況全般を占うCRRB指数は3月の年初安値

れた結果、利回り上昇を招き、その煽りを受けて株が売られた。一方で、大きく売られた

209ポイントから先週13日に231ポイントと10.5%上昇、長らく低迷が続いていた商品市況に巻き返し機運が出ていたことも金価格の追い風になっている。

最近、話題になっているのが米国とドイツの金利上昇で、特にドイツの金利上昇が著しい。ゼロ%だった10年物国債の利回りが0.6%に飛び跳ね、米国の10年債利回りも大きな壁だった2%を超えて上昇。ドイツと米国の債券が売られたこと

券や株式から金に逃避する動きが顕在化、ニューヨーク金が1,200ドル台復活を果

による金利上昇が嫌気され、株式市場は不安定な動きを強いられる。米国では、9月以降の利上げの可能性が確実視され、金利が上がりやすい環境にあり、リスク回避から資金が株から金に向かう可能性は高い。米国の景気動向を示す経済指標は総じて低調で、ドル高基調に変化が出てくる。金を抑えつけてきた低金利、ドル高、株安、原油安がここにかけて逆回転、金価格上昇に弾みをつけよう。

り局面となると思われ、円高の下限で買うのが理想といえる。中長期的には、FRBが遅くとも今年中に利上げを断行することはほぼ確実で、実際に伝家の宝刀が抜かれれば、金は悪材料出尽しとなり、金にとって弱材料だった利上げが、インフレ機運につながり、全金融商品のなかで金が最も輝く投資対象となろう。米国の利上げは金価格上昇のスタートといえる。

たした。まずは1,200ドル以上で買い上げられ、東京金は戻り売

そろそろ基調反転の時期か 安倍内閣は過度の円安警戒

FOREX 為替



バーニャ・マーケット・フォーカスト代表
水上 紀行氏

日本の貿易赤字が拡大するに伴い、ドル買いが活発になるという構図で、昨年12月からドル高・円安が続いていた。ただ、昨年から原油価格が大幅に下落して貿易赤字が縮小されたため、今後、ドルが売られる可能性がある。

アペノミクスという言葉が市場に浸透し、日本株高、円安、ドル高となった流れも、最近、変化が出てきた。日本株が高くて円安にならず、円安が加速されても日本株が下がるという場面が見られる。これは市場のメインドが変化し、アペノミクスに対する不信感が出ていると見られる。また、安倍内閣陣営も、『これ以上の円安は困る』と考えているのではないかと

閣から出てくるコメントのなかに円安を歓迎しない内容を読み取れる。加えて、米国もドル上昇に限度があると考えていると推測出来る。事実、ドル高は米国の輸出実績を悪化させる要因だ。

為替市場ではドル対ユーロに関心が集まっている。年初からドル高・ユーロ安が定着、その理由はギリシャのデフォルト懸念だったが、その懸念は市場に織り込まれ、ギリシャ情勢の沈静化で欧州の景気見通しが明るくなってきているため、今後、ユーロ高・ドル安という局面を迎えるのではないかと。まずは1ドル=119円中心の採合相場継続と見る。120円超えるとドル売りも。

GOLD 金



岡地(株)東京支店
投資相談部
チーフアドバイザー
千葉 純平氏

マネー変動が金買い誘う 株と債券市場から資金シフト

原油が急反騰し、国際商品を押上げた。いわゆるマネー変動により、投資資金が債